

基礎マクロ経済学 教科書との差異

担当：別所俊一郎

2008年7月8日作成

今回の授業では、竹田-小巻の教科書とやや異なる説明をした個所がいくつかあります。ここでそれらをまとめておきます。

Unit 4. 財政政策 (p.53) 財政収支は政府の収入と支出の差をあらわし、プライマリーバランス（基礎的財政収支）は政府の利払い以外の支出と収入の差を表すから、

$$\text{財政赤字： } FD_t = G_t + i_t B_t - T_t = B_{t+1} - B_t$$

$$\text{プライマリ赤字： } PD_t = G_t - T_t = B_{t+1} - B_t - i_t B_t$$

授業では名目的な負債の動きと実質的な負債の動きの違いについても説明しました。

Unit 5. 金融政策 (p.66) 教科書では企業は貸し出しを受けた資金をすべて預金としているが、授業では貸し出された資金のうちの一部 ($m/(1+m)$) を現金に、残りを預金する ($1/(1+m)$) と仮定して信用乗数を求めました。信用乗数と貨幣乗数は似たような概念なので、授業では同じものとして扱いました。

Unit 7. (p.80, 下から5行目) 「エンゲル係数は上昇する」とありますが「エンゲル係数は下落する」の誤植ではないかと思えます。

Unit 8. SNA (p.101) 市場価格表示の国民所得の定義式が上から10行目にありますが、

$$\text{市場価格表示の国民所得} = \text{要素費用表示の国民所得} + (\text{間接税} - \text{補助金})$$

の誤植ではないかと思えます。ついでに、このページの下から4行目「修正」は「集計」の誤植ではないかと思えます。

Unit 12. (p.150, 下から6行目) 資本の限界生産力は $\partial Y_t / \partial K_t$, 労働の限界生産力は $\partial Y_t / \partial L_t$ です。

Unit 13. (p.159) 真ん中あたりの式展開に「老年期の貯蓄」とありますが、2期間の世代重複モデルでは老年期は貯蓄しないので、この表現は無視したほうがよいと思えます。式の上のカッコは正しいです。

Unit 14. (p.164) 「世代会計」の用語法ですが、教科書でいう「世代会計」 \hat{t}_t は t 期生まれの家計の支払う税の割引現在価値のことで、166ページのコラムで紹介されている「世代会計」とはあまり一致しません。授業では、「世代会計」は166ページのコラムで紹介されているような推計のことを指すものとして使っています。

Unit 15. (p.172) 積立方式の公的年金の分析ですが、積立方式では政府部門が積立金をもって資産運用することが多いので、授業ではそのような政策を仮定して説明しました。なので、174 ページにあるような「リカードの中立命題」は授業の説明では成立しません。その代わりに、授業の説明では、積立方式の公的年金制度のもとでは、公的年金制度が存在しないケースと同じ状況が実現します。

Unit 16. (p.180) インフレ率 π_t の定義が混乱して記述されているので、政府の予算制約式やシヨレツジ（通貨発行益）については別途資料を作りました。必ずWebClass 経由で確認しておいてください。

Unit 16. (p.183, 下から 6 行目) インフレ率の定義は $1 + \pi_{t+1} \equiv P_{t+1}/P_t$ です。

Unit 21. (p.227) 財政政策と金融政策の両方のある世代重複モデルを考えても、ここで示されている資本の推移式は出てきません。第 4 回の練習問題を参考にしてください。

Unit 21. IS 曲線の導出については、 $Y = C + I + G$ から出発して導く方法についても説明しました。